

**不断の努力が結実**  
高島高校 春高バレー出場決めた!

**目指すは  
全国制覇!**



- 特集1 ②-④ 人口減少社会の地域設計
- 特集2 ⑤-⑦ 職員は減っても、より親切、丁寧な支所づくりを進めます

- |                 |                      |
|-----------------|----------------------|
| 8 タウントピックス      | 15 教育委員会 information |
| 9 健康生活していますか?   | 16 国保年金あらかると         |
| 10 みんなで5・7・5    | 17-21 情報おしらせ版        |
| 11 市長日記・省エネ長者作戦 | 22 そうだ図書館に行こう♪       |
| 12・13 まちなタ写真館   | 23 窓口・納税             |
| 14 びょういんだより     | 24 歴史散歩              |

全国大会での活躍が期待される高島高校男子バレーボール部の皆さん。  
(2月15日の練習後撮影のため、出場部員のみで不在の方がおられます。ご了承ください。)

桜  
広報たかしま  
(平成20年3月1日発行)

第62号

発行/高島市 編集/企画部秘書広報課  
〒500-0001 滋賀県高島市新旭町北畑605番地 ☎0740(25)8130

http://www.city.takashima.shiga.jp  
info@city.takashima.shiga.jp

高島市

# 歴史散歩

No.39

## 琵琶湖哀歌の誕生と四高桜

遠くかすむは彦根城  
波に暮れゆく竹生島

三井の晩鐘音絶えて  
なにするすり泣く浜千鳥

の歌詞と東海林太郎の歌唱で知られる「琵琶湖哀歌」は、昭和16年4月6日に大溝沖で遭難した、旧制第四高等学校(現・金沢大学)の学生への追悼の意を込めて誕生しました。

四高の漕艇部は、昭和15年に大津の瀬田川で行われた全国大会で優勝をおさめ、16年の春は連続優勝を目指して南湖で合宿練習をし、合宿の総仕上げとして琵琶湖の縦断をすることになりました。大津から今津へ向かい、2泊した後、大津へ戻るために4月6日の朝、



▶四高桜の記念碑

今津を出発しました。通常は波の穏やかな日が多い琵琶湖ですが、この日は比良連峰から吹き下ろす風が予想外に強く、漕艇部員11人を乗せたボートは、現在の萩ノ浜の沖合1.5キロメートルの地点で転覆してしまいました。

この知らせを受けた地元大溝の警察・役人・漁業関係者らは、四高関係者らと協力し、必死の捜索活動を行いました。しかし、捜索は難行し、最後の遺体が発見されたのは、2か月余り後の6月10日であったといえます。



◀苗木の移植活動

大溝では百ヶ日法要のときには供養のために町内の各戸が1個ずつ灯籠流しを行い、翌17年の1周忌には妙淋寺で法要が行われ、湖畔には四高関係者との協力が

(文化財課)



キラリ! 琵琶湖のダイヤ。(今津港で)

▼厳冬の琵琶湖の風物詩、氷魚漁が行われています。氷魚はアユの稚魚のことで、体が氷のように透き通っていることから、この名がついたといわれています。現在では主に放流用のアユ苗として獲られ、その希少性から琵琶湖のダイヤモンドとも称されます。琵琶湖のアユは、成長しても大きくならず、他の河川に放流して始めて大きく育つことから、他国に出て大成した近江商人に例えられます。▼今月の表紙は、春高バレー(全国高等学校バレーボール選抜優勝大会)に出場される高島高校男子バレー部の皆さんをご紹介します。数多くの日本代表選手を輩出しているこの大会は、青春の日々をバレーボールに捧げた高校生たちの「夢の大舞台」。頂点を目指す全国の仲間と磨き合い、不断の努力の集大成に、輝け高島ダイヤ!

(広報担当)

編集後記